

入域観光客統計概況

－平成16年12月分－

沖縄県観光リゾート局

12月の入域観光客数は390,800人 前年同月比 △2.6% (△10,500人) 平成16年の入域観光客数は5,153,200人 (過去最高) 前年同期比 +1.3% (+68,500人)

1. 空海路別入域状況

空路：387,700人	前年同月比	(△7,300人	△1.8%)
海路：3,100人	前年同月比	(△3,200人	△50.8%)

2. 主要航路別入域状況

東京：177,400人	前年同月比	(△3,900人	△2.2%)	構成比	45.4%
阪神：68,700人	前年同月比	(△2,700人	△3.8%)	構成比	17.6%
福岡：50,100人	前年同月比	(△2,500人	△4.8%)	構成比	12.8%
名古屋：33,600人	前年同月比	(+900人	+2.8%)	構成比	8.6%

3. 概況と見通し

12月の入域観光客数は、修学旅行の増加などがあったものの、年末年始の日並びが悪かったことや、夏場に全国で相次いだ自然災害（台風・地震）の影響による旅行マインドの低下、昨年は運航があった海外クルーズ船が今年は運航が終了したことなどにより、国内客、外国客ともに前年実績を下回る結果となった。

今後の見通しとしては、国内客については、1月上旬の航空輸送実績が大幅に前年を上回っていることに加え、DFS空港外店舗のオープンによる誘客効果や本土からのチャーターツアーの増加（主催：農協観光、JTA便を利用）、官民による誘客キャンペーンの強化（JAL札幌路線20周年キャンペーン、JCBいこうよ！おいでよ！沖縄キャンペーン等）などにより増加が見込まれる。

外国客については、昨年は運航があった台湾からのクルーズ船が今期は予定されていないことにより海路は減少が見込まれるものの、空路については、2月に韓国から7便、台湾から6便のチャーター便が予定されており、増加が見込まれる。

以上のことから、入域観光客全体としては、おおむね好調に推移するものと思われる。

担当：観光企画課 久保田
TEL 098-866-2763
FAX 098-866-2767

(財) 沖縄観光コンベンションビューロー及び県各事務所のコメント (要旨)

1. 国内

東京事務所 (関東地区)

- 修学旅行を中心とした団体客が好調に推移したが、年末年始休暇が短く近場志向であったため、沖縄への旅行需要が伸びなかった。
- 1月はメディア商品の販売が好調であり、昨年を上回る予約状況である。特に個人旅行の動きがよい。

大阪事務所 (阪神地区)

- メディア商品の売上げ不振と日並びの悪さにより、観光客数の減少となった。
- 今後の見通しとしては、3連休による旅行需要の喚起や卒業旅行シーズンに入ることなどから、前年並みの観光客数は維持できるものと思われる。

福岡事務所 (九州・山口地区)

- 12月は、個人型フリープランは前年を上回ったものの、冬場の主力商品であるエスコート型商品及びメディア商品の不振から観光客数の減少となった。
- 今後の見通しとしては、国内外の自然災害による旅行マインドの低下が懸念されているものの、海外からの振り替えがほとんどない中、1月から2月の予約状況は好調に推移している。

名古屋事務所 (沖縄県) (名古屋地区)

- 航空座席提供数の増加により、入域観光客数の増加となった。
- 2月のセントレア中部国際空港の開港に伴い、アクセスの利便性が向上することやJALの1便増加により、入域観光客数の増加が見込まれる。
- DFS沖縄がマスクミで大きく取り上げられたことにより、問い合わせが多くなっている。今後、エージェント用の資料等が必要となる。

北海道観光・物産情報センター (北海道地区)

- 12月の減少要因は、直接的には悪天候による航空機の欠航があり、間接的には海外旅行の復調や暖冬による沖縄需要の低迷がある。
- 2月後半から3月まで、航空機直行便の提供座席数が2倍になることから、航空会社も販促に力を入れており、観光客数は増加に転じる可能性が高い。

2. 海外

台北事務所 (台湾地区)

- 12月は初旬の選挙の影響を受け、旅行マインドが落ち込み、減少となった。
- 本年も、スタークルーズ社の沖縄クルーズは、4月から毎週各1回の石垣クルーズ、宮古-那覇クルーズ、公海クルーズが予定されている。

韓国事務所 (韓国地区)

- 12月は、景気の低迷により価格競争が激しく、沖縄への送客は減少した。
- 2月はチャーターツアー(6便)が運航され800人の送客が期待できる上に、3月はハネムーン客が伸びる見込である。